

日本社会分析学会ニューズレター

2017年1号 [2017年4月11日発行]

発行：日本社会分析学会事務局 〒750-8511 下関市向洋町1-1-1 梅光学院大学 桑畑研究室内 編集責任者：桑畑 洋一郎(事務局長)	Tel:083-227-1000(梅光学院大学※代表) E-mail: sasa@jsasa.org ホームページ: http://jsasa.org/ 郵便振替口座:01740-0-49579 (名義)日本社会分析学会
--	--

※『社会分析』44号をお届けします。同封物をご確認ください。

※ 同封の振込用紙で **2017年度(平成29年度)会費の納入**をお願いします。同封の**明細書**をご**確認**のうえ、未納分や機関誌抜刷料もあわせて納入ください。**納入は必ず振込**をお願いします(振込料金をご負担ください[校費の場合も])。領収証は「**払込受領証**」をもって代えさせていただきます。学会発行の領収証が必要な方は、振込用紙にご指示ください。

◆研究例会の報告と予定

1. 第132回例会(2016年12月17-18日、北九州市立大学)は盛会に終わりました。お世話・ご協力・ご参加いただいた方々に感謝申し上げます。
2. 次回、第133回例会は**甲南大学**で開催します。詳細はプログラムとともに次号ニュースでご案内します。

第133回例会 日程：2017年 7月29(土) 午後～7月30日(日) 午前
会場：甲南大学(〒658-0072 兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1)

◆第133回例会【研究報告】募集

次回例会で研究報告をご希望の方は、**報告者名、報告タイトル、報告時間を6月16日(金)必着で事務局まで**、お知らせください(電子メールまたは郵送)。

- ・報告時間は以下のいずれかを選んでください(指定がなければSとします)。
 - S:持ち時間30分(標準は報告20分+質疑応答10分)
 - L:持ち時間60分(標準は報告30分+質疑応答30分)
- ・プロジェクトを使えます。特殊な機器を使用したい場合は申込み時にご相談ください。

◆『社会分析』45号【一般投稿論文】の募集

1. 『社会分析』45号の一般投稿論文を、下記の要領で募集します。原稿の提出期限・提出先は、下記の通りです。

原稿提出期限：2017年 10月 1日（木）郵送必着

原稿送付先：750-8511 下関市向洋町1-1-1梅光学院大学

日本社会分析学会事務局（封筒に「社会分析一般投稿論文」と明記のこと）

2. 投稿時には原稿コピーを3部お送りください。
3. 投稿に際しては、『社会分析』表紙ウラの「投稿規定」（2011年改正版）を遵守してください。規定に違反する原稿は受理できない場合があります。やむを得ず手書き原稿を提出される方は、早めに事務局にご相談下さい（できるだけ事務局で手配しますが、ワープロ打込みと校正に1ヶ月は余裕をみてください）。
4. 投稿原稿は審査にかかります。審査・改訂に投稿後3ヶ月程度を要します。審査終了時には原稿コピーと電子ファイルを各1部、お送りください。
5. 「抜刷料」は廃止になりました。（抜刷30部を無料でお渡しします。）

◆【書評】推薦の募集

随時、書評推薦を受けつけます。これは、会員著作や本学会として書評に値する著書だが、何らかの理由で自分では書評できないものを自薦・他薦いただく制度です。8月末までに推薦書を学会事務局までお送りください。

推薦書（様式任意）の記載事項：

1. 推薦者名、連絡先
2. 推薦対象図書の著者、書名、出版社、出版年、ISBN
（入手しにくい図書の自薦の場合は、できれば現物1部を添えてください。）
3. 推薦理由（簡潔で結構です。）

注意）推薦された図書は、編集委員会で検討のうえ、適当な方に書評を依頼します。これとは別に、書評原稿の直接投稿も受け付けます（この場合、上記の推薦手続は不要。投稿締切は10月1日）。

◆『社会分析』45号【特集】について

今回の特集担当は叶堂隆三会員です。特集のテーマについては下記をご覧ください。今回は一般公募はありません。

◇45号特集テーマ：『宗教とコミュニティ』◇

約1世紀前に出版された社会学の古典の一つ『ミドルタウン』（1929年）および『変遷期のミドルタウン』（1937年）は、アメリカの富豪のロックフェラーが創設した社会宗教研究所の企画（小工業都市における宗教の及ぼす影響の解明）に基づく調査研究であった。牧師の資格をもつロバート・リンズの主導によってこの研究は、「ミドルタウン精神」を含む1890年代から1920年代のアメリカ中西部の生活とその変容の研究に大きく展開する。

ミドルタウン研究が行なわれた20世紀前半は、前世紀までのアメリカ社会と大きく様相が異なる状況にあった。都市化・工業化が中西部にも広がり、消費文化がアメリカ全土に浸透し、Holy Dayの綴りがHolidayに転じるように世俗化が急速に進んだ時代であった。実際、ロックフェラー自身が創設したシカゴ大学も彼自身が重視してきた神学中心の大学教育に（社会・自然）科学が混在する教育内容になり、社会学部のビッグ4と呼ばれた教員は、スモール、ヘンダーソンの牧師資格者とそれ以外の教員（バージェス、パーク）がまさに同数の状況であった。

それから約1世紀後の日本の宗教と社会、とりわけコミュニティをとりまく状況は、どのようなものであろうか。アメリカ同様にいやそれ以上に急速に世俗化が進行しているのであろうか。

約半世紀前、R・P・ドーアは『都市の日本人』（1962年）の中で、都市の狭小住宅における家の宗教の存続と新たな宗教の受容の状況を克明に記録している。その後、都市的状況の浸透と宗教の「個化」「個人宗教」の趨勢にさらされて、（地域を基盤とする）コミュニティと宗教の緊密な関係性は衰退・消滅に向かう状況にあるのだろうか。

地域の神社の付け祭りと呼ばれる宗教儀式は、長い間、地域社会学・宗教社会学の主要な関心であった。しかし、信徒組織や伝統的地域組織と密接に結びつき、その動員を通して開催されてきた祭りにいわば「市民宗教」化、「観光資源化」の波が打ち寄せてきているのではないだろうか。

個人生活に関しても、宗教儀礼の簡略化・省略化は、今日、急激に人びとに受け入れられつつある状況といえる。すなわち、各地区・集落に根づいた宗教・信仰・葬儀集団に基づいて地域・近隣で行われてきた葬儀が、その後、専門的業者に依頼する脱近隣・脱地域な儀礼に転じ、さらに今日、「家」の宗教に基づく葬儀や墓制が見直される段階にあるといわれる。

その一方で、新宗教・新新宗教の系譜の宗教は、今日も一定数の信徒規模を維持しながら、政治的領域への展開等を含めて類縁関係的な社会関係を基盤に精力的な動きを見せているのも事実である。

さらに、世界に目を向けるならば、国家間・民族間の対立において宗教および宗派の対立が国際的な紛争の大きな要因である状況は、20世紀以上に深刻なものになっている。そうした背景には、信仰が生活の一つの生活領域に限定されるものでなく社会的剥奪の主要な社会的要因に位置づけられる国外のさまざまな社会状況が指摘されている。

本特集では、日本国内外における宗教の社会的状況を明らかにすることをめざすものである。約1世紀前にリンドがインディアナ州マンシーで18か月間参与観察した時と同様に、宗教・信仰を社会、とりわけコミュニティとの関係からとらえていくことを特集の土台にしたいと考えている。その上で、国内外のさまざまな事例を検討することで、一般的な趨勢・動向では見落とされがちな社会の多様な状況の発見をめざしたいと考えている。

なお、本特集では、コミュニティを地理的範囲に限定するものとせず、多様な宗教的現実に対応するものとして執筆者に原稿を依頼していることを付記しておく。

叶堂 隆三（下関市立大学）

●事務局からのお知らせ

事務局の作業遅れにより『社会分析』をお届けするのが大変遅くなりました。申し訳ありません。

今年のニューズレター発行のスケジュールは下記の通りです。

2017年 4月（2017年1号 [本紙]）	第133回例会報告募集、『社会分析』45号論文募集 （同封：『社会分析』44号、会費請求、名簿用返信はがき）
2017年 6月（2017年2号）	第133回例会案内・プログラム
2017年 9月（2017年3号）	総会議事録、第134回例会報告募集（同封：会費請求）
2017年11月（2017年4号）	第134回例会案内・プログラム